

第5回 球磨川下流域環境デザイン検討委員会

河口域・汽水域の干潟・ヨシ原の再生の
デザイン検討について

平成26年 1月15日

八代河川国道事務所

1. 干潟・ヨシ原デザインの基本方針（案）

1. 掘削土砂を有効活用した河口域、汽水域の環境の保全、再生を基本とする。
2. 水生生物の生息環境に配慮する。
3. 水生生物固有の生息環境の保護、保全に配慮する。
4. 干潟、ヨシ原の保全、再生を目的とした環境学習の場を創出する。
5. 干潟、ヨシ原については、段階的な施工（試験施工を含む）により、その効果をモニタリング及び検証を行いながら、保全、再生を実施する。

2. 水生生物ワーキンググループの設置について

● 目的

河口域、汽水域の干潟、ヨシ原の再生に向けた水生生物に配慮した施工方法、モニタリング調査方法、調査結果の評価並びに更なる改善方法及び今後の維持管理について指導、助言を行うものとする。

● 第1回 水生生物ワーキンググループの開催状況（平成25年12月27日開催）

【議事】

- ・ 河口域、汽水域のデザイン検討委員会の検討状況について
- ・ 河口域、汽水域の環境調査状況について

【ワーキンググループでの主な意見】

- ・ 底質、底生生物等の調査について、全体を調査することは困難である。環境が劇的に変化しそうな場所を選定して、グリットを切った調査を検討すること。
- ・ 球磨川の特性を整理すること。
- ・ 河川管理者に管理ベースで何ができるか情報を整理し、そこに学術的なものを絡めていく。
- ・ 出水前後の状況を空撮で調査することも重要である。
- ・ 重点的に調査を実施するべきエリアは、工事前も含めて縦断・横断方向の調査も必要である。
- ・ 球磨川の汽水域、河口域は、泥と礫が混在している環境なので、自然再生のための新たな指標が必要である。
- ・ 絶対評価は困難であり、誰がみても「ここはいい場所だ」と思えるような場に近づけることを目標にすること。



現地視察状況



議事状況

